

## 漢字で表す 2016 年

年末恒例の、公益財団法人 日本漢字能力検定協会（漢検）による 2016 年「今年の漢字」が発表され、今年の世相を表す漢字の第 1 位は「金」に決定したと報道されました。

「今年の漢字」は、毎年年末に今年一年の世相を表す漢字一字とその理由を全国から募集し、その結果、最も応募数の多かった漢字として発表されます。漢検は「金」が多く選ばれた理由として、

- ・リオ五輪での日本人選手の活躍による「金」メダルラッシュ
- ・前東京都知事の政治資金、築地市場の豊洲移転など、次々と浮上した政治と「金」の問題
- ・日銀によるマイナス「金」利の導入
- ・米次期大統領に選ばれたトランプ氏の「金」髪
- ・「PPAP」が大ヒットしたピコ太郎さんの「金」色の衣装

などを挙げています。

なるほどとも思いますが、応募総数 153,562 票のうち「金」は 6,655 票（4.33%）の獲得とのことで、非常に意見の割れた結果だったようです。事実、今年はビッグニュースが連発する年となり、「金」の一字ではとても表せない年だったといえるでしょう。また、「金」は 2000 年と 2012 年にも選ばれており、2016 年もまた「金」で片付けてしまうのは惜しい気が致します。

そこで、今回年末の CBCA ニュースでは、「漢字で表す 2016 年」として、1 位にはならなかった「金」以外の漢字にスポットを当てながら、今年の出来事を振り返ります。

### ◆ 「選」（第 2 位、4,723 票 3.08%）

記憶に新しい 11 月の米大統領選挙では、トランプ氏が「奇跡の大逆転劇」の末、次期大統領に「選」られました。就任は来年 1 月ですが、すでに世界の政治・経済は、トランプ氏に振り回される状況になっています。株式市場では、トランプ・ショックで日経平均株価が一時 1,000 円もの大幅な下落を見せたかと思うと、翌日からは一転して、同氏の経済政策に期待するトランプ・ラリーで活況を呈するなど、目まぐるしい展開を見せています。安倍首相は、大統領就任前のトランプ氏と異例の会談を取り付け、早期の関係構築に躍起になっています。トランプ氏が具体的にどのような政策を打ち出してくるのか、米議会との連携は図れるのか、米国と各国との関係に変化はあるのかなど、当面その一挙手一投足から目が離せない状況が続くことでしょう。

また、6 月の英国民投票による EU 離脱の支持派の勝利は、歴史的な意味としては、トランプ氏勝利以上のものがあるかもしれません。中世、近代から、二度の世界大戦まで、幾度となく戦争を繰り返してきた欧州が、これからは皆で結束していこうとする協調体制の中核が EU（欧州連合）です。ここからの英国の離脱は、国際協調体制が大きな岐路に差し掛かっていることを意味します。世界全体の利益より自分に身近な利益を優先させる国民の「選」択の流れは、米大統領選挙と相通ずるものでしょう。

日本では東京都知事「選」が話題を集めました。就任後の小池新都知事の奮闘と困難は皆さまご存知の通りです。その一方で、以前の都知事の方々は一体何をしていたのだろうと腹立たしく思えてきますが、その知事を選んだのは私たち東京都民でした。

民主主義の意思決定方法である多数決は、もっとも公平公正な方法であると認識されています。でも、その決定が真に正しいかどうかは分かりません。もしかしたら、捨て去られた他の案のほうが良かったのかもしれない。2016年、「選」ぶことの大切さと難しさを私たちは学びました。どのような理由で「選」ぶのか、これからは今まで以上によく考えて行動したいと思います。

◆ 「驚」(第5位、3,746票 2.44%) 「乱」(第10位、2,542票、1.66%)

年明けの1月、スポーツ誌で人気グループのスマップの解散報道が伝えられました。ファンならずとも、突然のニュースに「驚」かれた方は多いでしょう。2月には元プロ野球選手の清原氏が覚せい剤取締法違反で逮捕されました。また、人気タレントのベッキーさんのゲス不倫を皮切りに、今年是有名人のスキャンダル発覚が相次ぎました。

10月、ノーベル文学賞にボブ・ディラン氏が選ばれたことは、同氏の音楽を聴く人にも聴かない人にも「驚」きのニュースでした。文学賞の対象範囲が問われる判断でしたが、またも受賞を逃した村上春樹氏の胸中はいかがでしたでしょうか。

6月、米オバマ大統領の被爆地広島への訪問は、今年最も好ましいサプライズでした。反対に、12月26日には、安倍首相がハワイの真珠湾へ慰霊で訪れる予定です。なんと、現職の首相による真珠湾訪問は初とのことです。筆者などはひどく「驚」かされ、友好的日米間においても、戦火の清算は簡単なことではないことを改めて感じました。

海外では、イスラム国に関係すると思われるテロが世界各地で「乱」発しました。主なものだけでも、3月のベルギー(ブリュッセル空港)、7月のバングラデシュ(ダッカ)、フランス(ニース)、そして12月のドイツ(ベルリン)と続きました。シリア内戦が収拾する状況にはなく、一時期の勢いはないとしてもイスラム国も依然として勢力を保っています。日本での大規模テロが起こらないことを祈るばかりです。

さて、2016年の東京株式市場は、年初から6営業日続けての値下がりとなる波「乱」の幕開けとなりました。2017年はどのような展開を見せるのでしょうか。筆者は、やはりトランプ氏の政策が鍵を握るのではないかとみております。

一般社団法人全国経営診断士会

〒112-0004

東京都文京区後楽 2-2-17 NBD 三義ビル

TEL: 03-3812-8211 FAX: 03-3812-8213

mail@cbca.jp http://www.cbca.jp

お問い合わせ先